

<動向> 『高尾山薬王院文書』史料集について

(出版者 / Publisher)

法政大学史学会

(雑誌名 / Journal or Publication Title)

法政史学 / 法政史学

(巻 / Volume)

41

(開始ページ / Start Page)

55

(終了ページ / End Page)

57

(発行年 / Year)

1989-03-24

『高尾山薬王院文書』史料集について

高尾山薬王院文書の調査については、すでに『法政史学』三十九号において紹介した。その後、昭和六十二年六月には、法政大学多摩図書館地方資料室より『高尾山薬王院文書目録』(B5判 八四頁)が刊行された。この目録には十三項目、二二七二点が収録されたが、その後、薬王院で見えられた二五四点の追加文書を加え、地方資料室では昭和六十三年三月に『高尾山薬王院文書目録補遺』を発行した。これで一応、二五二六点となったが、さらに、その後の文書数の調整によって、最終的には昭和六十三年六月に、計二五七三点となることが確認された。文書の分類と数については、慎重に確認作業を進めた結果であるが、結局、寺歴・住職関係が二点、幕府・明治政府関係が一八点、紀州藩関係が二七四点、信仰関係が三点の計二九七点が増加したことになる。

これらの薬王院文書については、一応、昭和三十五年度に東京都教育委員会が実施した浅川流域文化財総合調査によって、二〇五三点の簡単な概要が報告されているが、『南多摩文化財総合調査報告』第三分冊、昭和三十七年)、今度の調査によって、文書

『高尾山薬王院文書』史料集について

数は五二〇点も多くなっている。そのうち一部の五八点は村上直・北原進編『武州高尾山史料集』(薬王院 昭和五十三年度)で紹介されたことはあるが、高尾山薬王院文書の全貌が詳細に明らかにされたのは何と云っても今度が初めてである。文書の内容は全体として戦国期関係、寺社・住職関係の一部を除くと大部分は江戸時代と明治期のものを中心である。薬王院は、記録によると、かつて、永正元年(一五〇四)と延宝五年(一六七七)に大火があり、さらに昭和四年にも山上が火災となっている。こうしたときに恐らく他の文書も一部が焼失したとも思われるが、それにも拘らず、現存する薬王院文書は保存の状態はきわめて良好である。これは焼失や散逸した以外の文書にたいする管理がよかつたからではないかと考える。

薬王院文書のなかで、最も古いのは、文和二年(一三三三)四月十九日に記された金剛資俊盛の「清滝権現印明」である。この文書は俊源大徳が中興の開山となったときより、約二十数年前のものである。この頃にすでに清滝権現が開かれていたということにな

る。項目別の文書内容は、戦国関係が領主の寺院や山林の保護が中心であったのに対し、江戸時代・明治期の文書はかなり多様化している。文書数で圧倒的に多いのは別表のように末寺関係であり、次いで寺歴・住職関係、幕府・明治政府関係、紀州藩関係、寺院経営関係、寺領関係、諸寺院関係、信仰関係、江戸四箇寺関係などの順になっている。このうち末寺関係は、八王子・相模原市、城山町に分布している十七か寺の関係、それに各末寺の人員帳や什物帳、年貢・訴訟・祠堂金などの文書が含まれている。次の寺歴・住職関係は薬王院の内部に関する貴重文書であるが、この中には歴代の山主が法系を伝える印可状や血脈(血統)、口伝、履歴類などが多くある。幕府・明治政府関係では、また官林払下げ願などが中心である。紀州関係では薬王院が御三家の一つである紀州藩の祈禱所となっていたことから、藩主の健康や家運長久を願うものや、祈禱に対する寄付の品物など、八代將軍吉宗の享年年間(一七二六—一七三六)、以後の文書が中心になっている。寺院経営関係は寺院で働く小作人・奉公人の証文、借入金、配当物の仕訳、金子の受取の類である。また、寺領関係では、八王子市内の旧村である上長房村や、上柳田村の訴訟、百姓出入、御用木材などに関する文書が多くある。そして、信仰関係は諸種の講中や開帳類などである。江戸四箇寺関係は幕府が高尾山薬王院に通達するときは、必ず触頭である江戸の真福寺、弥勒寺、根生院、円福寺の四か寺を媒介として行っているが、これに関する公用の触書類が含まれている。以上が項目別で、一〇〇点以上もある文書の内容の概要である。この他にも寺中関係や寺院行事関

1	戦国期関係	10点
2	寺歴・住職関係	352
3	江戸四箇寺関係	102
4	諸寺院関係	131
5	末寺関係	576
6	幕府・明治政府関係	306
7	紀州藩関係	304
8	寺院行事関係	52
9	信仰関係	107
10	寺院経営関係	277
11	寺中関係	70
12	寺領関係	218
13	絵図・刊行物他	68
		2573点

係の興味深い文書がかなりある。

高尾山薬王院文書は、このように薬王院の歴史や経営、末寺との関係、寺領の農民との関係、他の寺院や講中などによる庶民の信仰の様子、そして江戸幕府や紀州藩、明治政府と薬王院の関係などを明らかにすることができる、きわめて貴重な寺院や歴史的な史料が数多く含まれている。

法政大学では、これらの文書目録に基づいて、とりわけ重要と思われる文書を三冊の『薬王院文書史料集』に収録して刊行することを計画している。そのため、現在、収録文書の選定と文書の解説や筆写の作業を鋭意行なっている。

高尾山薬王院文書調査団は、昭和六十二年六月二日、第九回地方資料室委員会において委員は山本弘文教授が関口恒男教授(経

済学部)と交代したため、新しい編成となった。同月二十二日、村上直教授(团长)と渡辺岩井事務局長は高尾山薬王院を訪問、「文書目録」を山主の山本秀順貫主と大山隆玄執事に贈呈して、文書の整理の進行状況を報告した。当日午後、多摩図書館会議室にて「高尾山薬王院文書」調査企画会議が開かれ、史料集三冊刊行のため史料配分、執筆事項の検討に入った。この日から、従来の調査団会議は、調査企画会議と改称した。その構成は、村上直、関口恒雄、段木一行(昭和六十三年四月、文学部教授)、馬場憲一、渡辺岩井、吉岡孝(事務局員)であり、この編成で、作業の進行に当ることになった。史料集収録の文書の選定作業の進行にともない、同年十月十三日に第一回「高尾山薬王院文書」解説打合せ会が開かれ、解説担当者には、堀田トヨ(本学通信教育部卒)、竹内総子、光石知恵子、河野朝子、真野みつ子、平沢信子(本学大学院修了)の六氏、のちに新城美恵子氏(本学大学院修了)が加わり、計七名で当ることになった。昭和六十三年五月二十五日、第十二回多摩図書館地方資料室委員会において、「高尾山薬王院文書」調査状況、第一巻出版の作業日程等の報告があり、安岡昭男、村上直の両教授及び図書館関係者が出席した。なお四月一日付の人事異動により、事務局長は渡辺岩井氏から飯村裕次氏に交代した。

史料集第一巻の収録文書は、①戦国期関係 一〇点、②寺歴住職関係 九二点、③江戸四箇寺関係 三四点、④諸寺院関係 五二点、⑤幕府・明治政府関係 六九点、⑥紀州藩関係 六二点の計一八九点が予定されている。

『高尾山薬王院文書』史料集について

なお、これと並行して、昭和六十三年六月二十八日に第二巻収録文書選定会議が開かれ、第二巻には①末寺関係、②寺院行事関係、③信仰関係。第三巻には①寺院経営関係、②寺中関係、③寺領関係、④絵図・刊行物他が収録されることが決められた。平成元年(一九八九)には、はじめて第一巻が刊行されることになっており、現在、入稿、校正中である。(文責・村上直)

前号要目(第四〇号 史学科創立四〇周年記念)

法政史学 第四十号の発刊に当って 村上 直

新羅・渤海時代の鎧帯金具 伊藤 玄三

守護奉行人奉書に関する基礎的考察 三宅 克広

近世前期世襲代官の支配とその終焉 馬場 憲一

香川県の地租改正とその影響 土居 光子

古代中国西南地域の大姓(一) 岡安 勇

〔研究ノート〕
近世信濃における天領支配について 西沢 淳男

伊勢神宮役夫工米免除地について 龍野加代子

〈研究動向〉
ソ連歴史学のペレストロイカ 倉持 俊一

史学科の思い出 村上 直

法政大学史学科四十年の歩み